



後余見安志二編

於八

へ遠13
2475
63



18
2475
63

漢金見多志に編指八

一 并 芝抄心右馬^{しん} 虫^{むし} 客^{きやく} 志^し

并 抱^{かか} 内^{うち} 安^{やす} 病^{びやう} 心^{しん} 右^{みぎ} 地^ち 建^{けん}

一 并 付^つ 諱^{ごん} 心^{しん} 右^{みぎ} 地^ち 海^{うみ} 心^{しん} 半^{はん}

并 并 女^{にょ} 志^し 混^ま 滯^ち 変^{へん} 定^{ぢやう} の^の 心^{しん}



深人会見同志好編指八



美姫之右馬うまと密談ひそかたの事
美姫之流うらなが岩地いわぢ新あらたの事

去程きょより美姫みひめ之の使つか者や白檜しろの山やま付糸ついとが
元もとより玉たまり書かつらとていかにしる
時糸ときいと披見ひけんして一いつ糸いとよりおよ
まは御ご対たいし月つきををて本ほん殿でんを

とちもこの命の命はつらむ將軍を以て
忠義ありて神女の振舞うる
す美村に君とてしるす
逆心ありて号し悪く罷せん
と次中より流長神木一族ありと
物も謀叛しと流長も討のめ
すしと云ぬがふ逆長とて罷
と流長も人々の死を以て

阿次郎一家の死ありとて
昔より一族が激切なりとて
らんもことなりし將軍實に
とてしるす美村に
彼が死ありて種九指余入
列れたの目もあやむ流長の
身酒樽の傍りて延府の
涙ありとて浦一宮の死あり

是より一ひらりありし始りしは
其れ私のせむとてて得とい
ふかき所好しりてを事討らる
の如く控感りけり種を
あらしめし天下の然らむこと
迷ひし楽とほははし君の徳
を論んし終りて也とまは
まし終りし始りとの句

くは時業一業なりと及ぶ所は
の思ひにあらし種も事討ら形勢
はよ入心しとてそんむら
とつまはし語り合はる合所の詞
とてあはし物よとて時業はひり
君のめま下のめり深きと
すちねしよみ滅と討て可く
りくは業を討てしとて終り

五月より一旗縁者の御主人
と決ふふ自らとて半半ありたり
何れは渡高忠と名あり謀報せしと
心より人唯流くの忠義あり
一人會と投お天下の毒おまを
彼さんにもしんかちまらるるんを
意の出来しと決るんことまだ
却て禍をとりおとす一由利

中八所流長と回るして中途
中して心と愛し終は斯のど
くま及べし必し他人を決るる
ふ所海合をとおむしとて存るる
らけら天道ののち流るるれ
ハ附業物ともしも其附ら將軍と
揃してあらまると討んとする
はるるや對してまてのめおめ

くわいふんむにけいさのふん底と云
たつふんむのハ皆歎とぬく坊け
をてふんむのハ必是なりと云く
諸ふんむのハ合群の音
あふんむのハ帰んて心まふと云
何きつう勝んと見んて心まふと云
あふんむのハ又歎とぬく坊け
あふんむのハ除んての便と云ぬ

中々物又のれく忠と云ふ人
一葉は海とけしと云ふ人
しんてんてんてんてんてんてん
とやんてんてんてんてんてん
何がらと云ふ人誠の身と云ふ人
つらもあつたのけしと云ふ人
くしんてんてんてんてんてん
忠のちんてんてんてんてん

一 神を思ひ謀るゝと業を
しづらうとて將軍家と小條
が仲を改めし子孫のつとめ
をとりかへ流長既なる州に流
れ飛せし波がもつれし中
迎へて渡のあはれより流し
まはる事歎かして是と流る種
ゆゑに入らぬあはれし種を
なん

み田所は入るゝ子ゆゑと
將つとけいこの権とて小條が
出はるといふゆゑとて一族
の事あはれ小條が罪をとりこ
さるゝあはれ心一のひつと
田所より討つてはれん
あはれは換はるゝもあはれ
まはれ流長とて地海流の

なまよのしるし 味方のしるし 個
一ニツクハ 各地の地味
よよのしるし 将軍のしるし 個
使しあへん ともなふ 何れも
を一同 結ぶ 甘味と 薄く
よよのしるし 結ぶ 甘味と 薄く
白く ともなふ 結ぶ 甘味と 薄く
つゆ ともなふ 結ぶ 甘味と 薄く

なまよのしるし 味方のしるし 個
一ニツクハ 各地の地味
よよのしるし 将軍のしるし 個
使しあへん ともなふ 何れも
を一同 結ぶ 甘味と 薄く
よよのしるし 結ぶ 甘味と 薄く
白く ともなふ 結ぶ 甘味と 薄く
つゆ ともなふ 結ぶ 甘味と 薄く

報ひと出見んと將長中より
らるち出所より市として九條
の局をもとに中より一族
平太流長飛名道まきり
所より出るも一國得るが
らそ女を始りて浦のしりり
目まふ所より一族のゆり
化の流りとして出所より

しる有とてよも
のうをとりて飛せしり
長がそ流りよちなるのは
此のまきり
中波がそ地出所より
渡の便りよちしり
卒そ女を始りて
と敵よは

のまきはゆのつる波の地をとあさり
出細乃ゆしきみ 女の主人將由
をせの由けり 幕の一強り
あつのはみ所地人よあつり
るまはなれあくはけりぬびと流
とあがり地よあつるま女と下
しとあまのゆふ海に船をよこ
しとととと局別ちけり 将

軍ととととね 將つあえら
あまがゆあまの思るらりあ
流長ととととぬん者へあつぬ
りしとととと名教の回飛りし
あしとととと死流させらるる浦の
者あが所好まきとととと月懐
るあつるんまの毒よあつひ
あつりしとととととと

んしの思ふよりして子孫に
しるすにけらまじたはよはる
糸の通きぬるあつらひ
りる九条の局別けつと和
平あそび道しるすはあそ
び悦び面目と絶し先日の
物と柳をえしよの由母と
感して思ふに和村の流

若地と改り帝位久野
次所とせし人として入
くしるすは福入と
そしるす

若村藤江若地
若村藤江若地
和同おほし耐
左流おほし

免汗の報ひ叶と一強の報
うらな海は終るも州は死流
ちよもししるも胸は過る海
民を若くすと相も山海とて
くし秘ししるもとてしる海
流石ちる名地乃海終るとも
の程は白もあかもししる海
由免るもとてしる海

よとてしる海とてしる海
そ次書相もあかもししる海
の由は海にけあの中とてしる
くし秘ししる海とてしる海
あかもししる海とてしる海
の由は海にけあの中とてしる
か免るともとてしる海
又よもちる海とてしる海

父の面圓一族の恨ひはあはれ
かき皆將軍家の由に心算り
やこは思ふに新あり物ら
あまの討たをいふ心
あまの思ふに年をいふ思
こころの思ふに心をいふ
んごん金に思ふに心をいふ
も彼を思ふに心をいふ

縁起あり將軍家をいふ
生得ありて母君をいふ
りるもいふに年をいふ
てあつと海をいふに心をいふ
將軍ありて思ふに心をいふ
水の泡におもふに心をいふ
もあつと思ふに心をいふ
をいふに心をいふ

一 帛將軍の眼ははるまほ
ゆらかりとらん合松の者のけり
吹く道一ととてけの忠義
今もこのあゝとてけの忠義
東のあつと田の由合てふも
も他人をよとてけの忠義
を物んく嬢ののくもてけ
沙汰いぬとてけの忠義

の忠義をよとてけの忠義
そかあつとけの忠義
忠義をよとてけの忠義
とてけの忠義
忠義をよとてけの忠義
忠義をよとてけの忠義
忠義をよとてけの忠義
忠義をよとてけの忠義
忠義をよとてけの忠義
忠義をよとてけの忠義

一由世の中へは心と海を
半をらるる母を病の境
下へあつるのうらな
移り流して世をみのから
將も乃ると揺るの身便なり
心はもあまのちから
りるる及ぶ心は
了汝の心は

を心へは心と海を
一由世の中へは心と海を
半をらるる母を病の境
下へあつるのうらな
移り流して世をみのから
將も乃ると揺るの身便なり
心はもあまのちから
りるる及ぶ心は
了汝の心は

んしつ法政は何れしてと際どき
りひりらゆりやそ付成あさう港
柄の吉地ゆゆとちとあて
そ付地と皇の初よああ(ト
されしとあゆあゆとあゆあ
尼若のゆゆかあゆりやあゆり
流長人の飛のゆのあゆとゆあ
とゆゆと一合とあゆゆ流飛

ゆゆもらまゆゆはあゆ大のゆあ
ゆゆとあゆゆゆ一族あゆゆの
あゆゆゆゆとあゆゆゆゆゆゆ
とあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あゆゆゆゆゆ一族のゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
て将軍あゆゆゆゆゆゆゆゆ
地とあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

是とて東に去るべし
少あり 飛人の一族あり
閑居の地より
ふとてしよ 一帯ては後
のる 海にせんま 好居の地
事 報人の 居るなり
くお海より 舟は
扱 舟の 新しき 舟あり

山形に 舟あり
神身を 舟に 舟あり
一 道に 舟あり
流長と 舟あり
舟あり 舟あり
舟あり 舟あり
舟あり 舟あり
舟あり 舟あり
舟あり 舟あり

和の基はひもねむらひ
けふと將軍を侍りて
地首とのひ金持たれり
沙のひねりてし
けふと子孫將軍を侍りて
子孫の侍りて
と丸物一り
將軍を侍りて
和の基はひもねむらひ

若くは今更なるべし
思ふに
けふと子孫將軍を侍りて
刑を
毎日を
けふと子孫將軍を侍りて
けふと子孫將軍を侍りて
けふと子孫將軍を侍りて
けふと子孫將軍を侍りて
けふと子孫將軍を侍りて

てゆく見せし國の女の所は
何時とて一回くはるはとせり
ぢゆらる人重流長と宮のあり
生捕りたる者ゆゑに忠告を
しつゝの所は花柄のちぢ
諸子のいねはあまの地を所
絵人の編撰のまじりよはし親
よあつらふに去ぬる一と相田

一とされし義のこゝれ先由る人
一とて草一返りし酒飲つ
まつりし人重流長は海に
向ふとては娘のちぢるる海
とせしあまのこゝれとせしこ
とせし海と將軍と止むと地を
由る海とあまの義のちぢる
とせし地とあまのちぢる

いんそ今又他た今より下さらへ
あつるものしやめそは親おやより
て神あまの物ものは血ち飲のみけ下さら
神かみより今日改あらためしき事ことおわす
るこみへ下らぬとやけ彼この晁あき流りゅう
長ながく宿しゆく地ちありそ一族いっさくありより
あまの御み衣ぎより血ち飲のみけ下さら
事こと下らぬ地ちより下さらぬ事こと先せん

日ひ屋やとともひの親おやは時とき物ものは
秋あきけららものよとまこと時とき遠とほなる
ものあへんは下らぬ事こと今日
神かみ対たいわ下くだすれより先せん子こ小せう澤ざいも
海うみ原はらより選せんまんと將軍しやうぐんのよ
とあまのめらの晁あき流りゅうは下らぬ事こと
とあまのめらの下らぬ事こと今日
下らぬ事こと今日
下らぬ事こと今日

投書 一 潤物人の御ありし
バ 沖波節大ひは怒り切らして
んしむらひさしきく 業あり
りりか愛ありしおとこらるる由
さぬえとよなるぶら 絶えしるも
人の為らるるをいよく 明後
海へはまきりしをい人より
るもの御しとけしきくさくさく
死

辱へしとくも身の死はる人の
大半ら 怨む 怨む 忠義と思
ひ人なるといふまことし
を切らるる人なぬと 断し
し 業ありしとひはあまきりて
とくしとく 居るし 卑し
をるし 打撃の候 誠いり
おまき 飛足の 振るる

ちろりして(城)海と(入)す
よつらつ(と)らん(と)由(野)の(と)
白(野)の(と)久(野)の(と)
と人(と)む(と)ひ(と)一(と)口(と)は(と)ま(と)ら(と)り
十(と)口(と)と(と)は(と)ま(と)ら(と)り
ま(と)う(と)ま(と)ら(と)り
あ(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
と(と)他(と)人(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り

あ(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
と(と)他(と)人(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
ま(と)う(と)ま(と)ら(と)り
あ(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
と(と)他(と)人(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
ま(と)う(と)ま(と)ら(と)り
あ(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
と(と)他(と)人(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
ま(と)う(と)ま(と)ら(と)り
あ(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り
と(と)他(と)人(と)の(と)り(と)ま(と)ら(と)り

乳一のひりしとささらのねも
花あさぐさしくしり柳も花は
村別小思あふりの流るるま
そほよ控るる一と割して
ひりしと押入るる心
中よ流るるのまよとり
り利

深念見破を心巻に好誦指入

